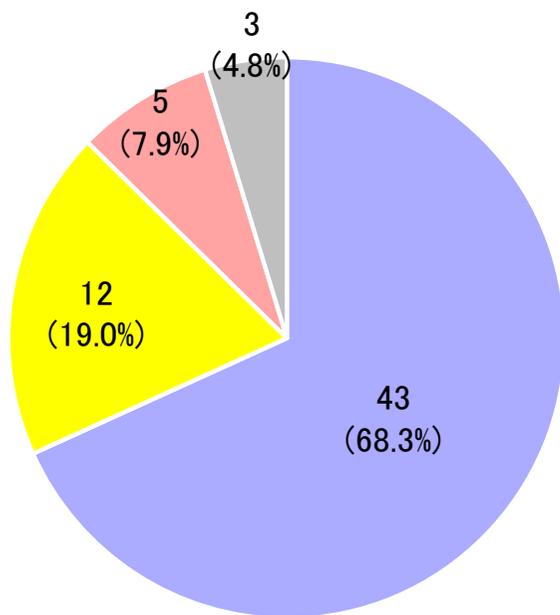


点検結果を踏まえた修繕等措置の実施状況 / 措置の課題

修繕等措置の実施状況においては、約68%の自治体で計画的に修繕を実施できていると回答。

修繕の実施状況

東京都(1)+区市町村(62)=63自治体



- 道路構造物を計画的に修繕を実施できている
- 計画的に修繕できている道路構造物とできていない道路構造物がある
- いずれの道路構造物も計画的に修繕を実施できていない
- 未回答

計画的に修繕を行うための課題・工夫事例

種別	内容
工夫	<ul style="list-style-type: none">◎ 小規模工事の一括発注や入札不調の対策◎ 軽微な損傷に対する早期の修繕対策◎ 計画的な修繕対策◎ 計画的な予算確保
課題	<ul style="list-style-type: none">◎ 関係機関との調整◎ 大規模な工事の予算不足◎ 予防保全での対策の財源確保◎ 予算不足◎ 人手不足◎ 技術力不足◎ その他

計画的に修繕を行うための工夫事例

種別	内容
小規模工事の一括発注や入札不調の対策	<ul style="list-style-type: none">◎ 比較的規模の小さな橋梁を合併して発注している。◎ 小規模な工事となる場合は複数橋梁をまとめて発注している。◎ 工事予定価格が低くなる場合には、入札不調を防止するために複数の橋梁をまとめて発注している。◎ 点検結果及び長寿命化修繕計画による、修繕対象橋梁をまとめて発注している。◎ 小規模工事の入札不調を防止するために、毎年3橋の修繕工事をまとめて発注している。◎ 橋梁修繕工事は入札不調の傾向が強いため、早い時期での工事発注を行っている。
軽微な損傷に対する早期の修繕対策	<ul style="list-style-type: none">◎ 計画的に予防保全措置をとるよう心掛けている。◎ 軽微な損傷等については、維持管理工事等の中で早期に措置している。◎ 軽微な損傷については補修設計を行わず、早期に措置に着手している。◎ 点検の包括的民間委託の期間を5年と、法定点検のサイクルに合わせ市内5分割しているため、常にコンサルタント会社と連携できる状態にあり、損傷個所を素早く発見から報告し、補修方法のアドバイスや打ち合わせにより、軽微な損傷については補修設計を行わず、単価契約にて早期に措置に着手できるようにしている。
計画的な修繕対策	<ul style="list-style-type: none">◎ マンパワー及び財政状況を考慮して、優先順位を付けた計画的修繕を実施している。◎ 予算平準化等も考慮した個別施設計画を策定し、突出して事業費や業務量が1つの年度に集中しないようにしている。◎ 年に1度の頻度、個別施設計画に準じ、職員によって施設の一斉点検を行い、職員の個別施設計画の理解向上及び各施設の経年劣化の把握を図っている。◎ 橋梁数が多いので複数年に分け計画的に点検を実施し、そこで修繕が必要となった施設の修繕を行っている。◎ 住民の生活に影響のないように補修を行う橋梁を年度ごとに分けて発注している。
計画的な予算確保	<ul style="list-style-type: none">◎ 行政計画に向こう3か年の経費を計上し、予算確保に努め、発注の機会を逃さないようにしている。◎ より正確な補助対象事業費を算出するために、早い段階で設計を行い、補助要望時期に最大限に要望できるよう工夫している。

計画的に修繕を行うための課題

種別	内容
関係機関との調整	◎ 関係機関との協議に時間を要し、修繕年度が計画から遅れている橋梁がある。
予算不足	◎ 補修費が年々増加しており、予算の確保に苦慮している。 ◎ 財源の確保が課題としてある。 ◎ 費用の面から修繕が遅れてしまう事がある。
大規模な工事の予算不足	◎ 大規模補修工事については財政措置が追いつかず計画より遅延する傾向にある。 ◎ 規模の大きい跨線橋の修繕が集中しているため、予算措置に苦慮している。
予防保全での対策の財源確保	◎ 健全度 2 の橋梁補修工事については、補助の要望額に対する内示率が低いことから、予防保全を計画的に行うための財源確保が課題である。 ◎ 健全性が確保されていないと診断された橋りょうについて優先的に修繕を実施しているが、判定区分に応じた内示額の減額により、市の財政負担が増加していることが課題となっている。 ◎ 予防保全の対応では、財政的な理由とすることが難しく、すぐに修繕できない構造物がある。
人手不足	◎ これまで維持修繕を行ってきた結果としてⅢ判定以上の橋梁を最少化できているが、今後、Ⅲ判定以上の橋梁がこれまで以上に生じた場合に、人材不足による修繕が追いつかなくなることを懸念している。 ◎ 職員のマンパワー不足もあり計画通りに事業実施が難しい。
技術力不足	◎ 職員の知識が不足しており、計画的な修繕、措置が追いついていない。
その他	◎ 橋梁補修工事は専門的な分野が多く、施工業者が限られており、さらに専門性の高い新技術を導入すると業者から敬遠されるのではないかと危惧している。 ◎ 島内業者の対応可能件数には限りがあり、他の工事等の影響で行えないことが多い。